

西神ニュータウン研究会 会報

第245号 2025年2月

■第245回例会記録

- ・日 時 2025年1月29日(水) 18:00~19:50
- ・場 所 神戸市外国語大学サテライト ・参加 20名
- ・テーマ 「西神ニュータウン6地区防コミ連絡会の活動」
- ・発表者 田辺征三郎氏(糀台地区防災福祉コミュニティ代表)
太田敏一氏(榎野台地区防災部長)



□6防コミ(西神ニュータウンの6地区「糀台」「狩場台」「美賀多台」「春日台」「榎野台」「竹の台」の防災福祉コミュニティ)と一緒に、訓練したり、勉強したりしています。

災害時と日常

阪神・淡路大震災の経験でわかったことは、「日頃やっていないことはできない」「いつ起こるかわからない災害にだけ使えるものではなく、いつも使っているものを災害の時にも使えるように工夫

(例)

- ★防災福祉コミュニティ
- ★まちのせせらぎ
- ★公園
- ★下水道ネットワーク
- ★既存のまちの組織
自治会、婦人会、スポーツクラブetc.
- ★井戸水、川やプールや風呂の水
- ★アウトドアグッズ
- ★我が家の備え(ローリングストックetc.)



防災福祉コミュニティ

「防災だけに特化した住民組織とするのではなく、普段の住民の福祉などの活動をも視野に入れたものにする」

当時、市が全小学校区に整備をすすめていた「地域福祉センター」を拠点に展開していた住民組織「ふれあいのまちづくり協議会」をベースにして展開していくことになった。それにより日常的な市民の活動と一体となった防災の活動が展開できると考えた。組織の名前にも「防災」だけでなく「福祉」を入れることで、日常的な地域活動との一体性が表現された。防災福祉コミュニティは、震災後各地区で順次設立され、今現在、全市の191地区で活動が展開されている。その活動のモデルは、世界的にも有名になり、インドネシアでも「BOKOMI」という組織が設立され、神戸市消防局がその支援をおこなっている。

「災害時と日常-防災福祉コミュニティ」(防災リテラシー研究所ホームページ)

4

西神NT6防コミの経緯

1 西神NT6防コミ連絡要綱の制定(平成18年4月1日施行)

- ①従来から行われていた西神NT6ふれ連絡会(6地区のふれあいのまちづくり協議会による連絡会)を参考。
当時はふれ協、防コミを一体運用している地区が半数以上で役員を兼ねていた。(平成27年ごろ、6ふれは会議運用に課題があったため解散。)
- ②須磨区防災福祉コミュニティ等連絡会(平成12年4月1日施行)を参考
須磨区は従来から北須磨、高倉台、妙法寺地区、板宿地区などによる自主防災組織の協議会があったが、平成7年の震災の教訓による防コミ設立を進めた結果ほとんどの地区が結成されたのを受け、須磨区防災福祉コミュニティ等連絡会として再スタートし毎年、海浜公園で消火競技大会などを実施。

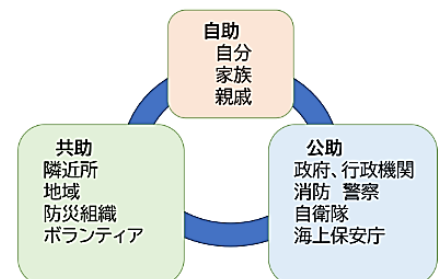
この①②を参考に③西神NTも6地区が合同で防災研修、訓練を実施し情報も共有して災害状況によっては、応援ができる態勢も整える。④事業を6年に1回順番に当番することにより各防コミも指導する消防署の負担も軽減できるという意見が進められた。

幸いにもこの会の事務局を竹の台地区が、また座長を同地区の代表が引き受け熱心に進めて下さり平成29年まで続けていただいた。

(代表は平成29年ごろ 市民防災功労表彰、令和2年8月1日死去)

6防コミの活動

防災活動の連携



6防コミの活動概要

- ①市民防災リーダー研修
地域防災のリーダーの育成
ブロック長の育成
- ②総合防災訓練
各種の訓練を総合的に実施
リーダーが参加者を指導
- ③防災研修
特定しない防災上の研修
専門家、研究者らによる研修

合同訓練



市民防災リーダー研修と総合防災訓練の内容

消火栓の取り扱い
小型消防ポンプの取り扱い
ジャッキ、バールによる救出
毛布による担架搬送
心肺蘇生法、AED
煙ハウスからの避難
ロープの結び方
水バケツのリレー

防災研修の内容

天ぷら火災実験
家庭内の救急事故
避難ルート、避難時間の計算
学校停電時の外部給電
防災トーク、アプリ
消防局管制室、危機管理室見学

防災トークアプリの体験会



□意見交換

- ・防コミのスタッフの経歴は？消防などの経歴か？
←糺台はほとんど経歴関係ない。樫野台は老人会婦人会の役員がコア。自治会1年交代。
- ・発電機の点検が問題。
←消防ポンプの燃料はオイルが混合しておりキャブレーターのパイプが詰まることある。（田辺氏）
- ・ボランティアでは、限界では。民間に委託するなど時代では。
- ・高齢化の時代。若い人にどうつなぐか。意識希薄になっている。
←防災だけの特化はダメ。ふれあいのまちづくり協議会の楽しい行事と一緒に。（田辺氏）
- ・防コミになにか新しい要素を入れないと、住民興味がない。東灘では、若い人が消防団に入っている。ニュータウンには消防団がないが、あったらよかったのではないか。
- ・マンションだが、訓練しても参加1割ぐらい。防災面は大丈夫と思っている。
- ・マンション居住者の声は、近所付き合いイヤ、自治会に入らなくていい、などの時代です。
- ・若い年代には、交通安全、防犯特にこどもの見守りなど意識されるのでは。
←防犯は大事。（田辺氏）コアメンバーはお年寄り、お母さん。年寄をこき使う時代。てんぷら油の火災やご自身の主人が倒れた時、誰か手助けほしい、など身近に感じることに興味がある。（太田氏）

（文責 橋本）